

七〇〇〇万年前の世界へ！

Planetarium



プラネタリウム
100周年



新オーロラを見た恐竜たち

虹色に輝くアラスカの大地

©D&Dピクチャーズ

投影期間 2023年6月10日(土)～9月10日(日)

投影スケジュール等は都合により変更になる場合があります。
最新の情報をホームページでご確認ください。

木曜日(夏休み期間※1、9月7日を除く)

15:30

土曜・日曜・祝日

11:30 / 13:30

夏休み期間※1の火～金曜日(8月11日を除く)

11:00※2 / 13:00

※1 夏休み期間・・・7/21(金)～8/31(木) ※2 7/26(水)、8/9(水)、8/23(水) 11:00は「夏休み子ども天文教室」開催のため、休止します。

■ 投影時間 約50分(星空の生解説約25分と番組「新オーロラを見た恐竜たち」25分)

■ 料金 プラネタリウム観覧料 一般410円 中学生以下210円 ■ 所在地 川口市上青木3-12-18 SKIP シティ内

■ TEL 048(262) 8431 ■ ホームページ <http://www.kawaguchi.science.museum/>



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



新オーロラを見た恐竜たち

虹色に輝くアラスカの大地

雄大なアラスカの大地、 夜空を照らすオーロラ



ヌック

ナヌークサウルスの子ども



ファル

アラスカケファレの子ども

約7千万年前、地上が多様な恐竜であふれかえっていた白亜紀。肉食恐竜・ナヌークサウルスの子ども「ヌック」と、植物食恐竜・アラスカケファレの子ども「ファル」。本来決して交わらないはずだった異なる種族である2匹の数奇な運命と絆。鮮やかなオーロラが輝くアラスカの美しい空の下、太古の昔に極地で生きていた恐竜たちの命のいとなみの物語です。

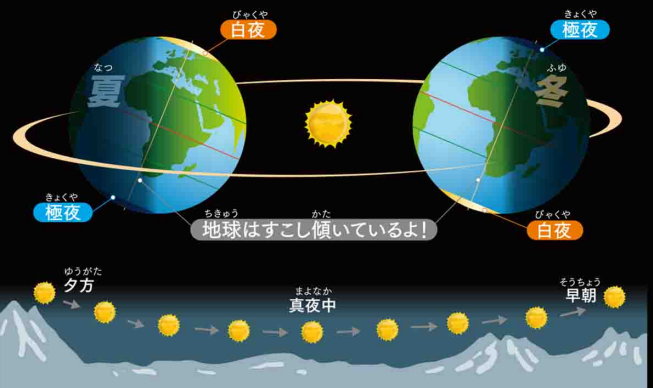


北極の夏は、太陽が沈まない?

北極や南極では、一日中太陽が沈まず明るい日があり、これを「白夜」、反対に一日中太陽が沈んだまま暗い日もあり、これを「極夜」といいます。

どうしてこのような不思議なことが起こるのでしょうか?

地球は太陽の周りを1年間かけてまわっており、そして地球自身もまた24時間で1回転しています。地球のまわっている軸(地軸)は垂直ではなく約23.4°傾いており、この傾きのために、北極では地球が1回転、つまり24時間経っても常に明るいエリアにいます。これが夏の沈まない太陽です。同じように冬は24時間経っても常に暗いエリアに位置するため、太陽は昇らず、ずっと暗いままになってしまうのです。



白夜の前後には太陽が地面すれすれをころがるように移動します

Point

白夜や極夜の日数は、高い緯度の場合ほど多くって、北極点では、なんと約半年間白夜と極夜が続くよ!